

球技における思考力・判断力を育成するための指導方法の工夫 —思考が「見える」活動を通して—

特別研修員 保健体育 小林史尚（中学校教諭）

生徒の実態

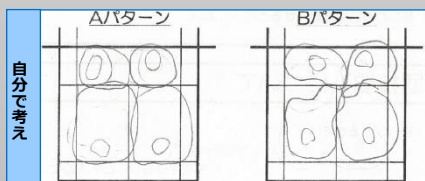
- ・ 作戦で自分の意見を伝えたい
- ・ ゲームの中で動き方が分からない

教師の願い

- ・ 話し合い活動で、考えを伝え合ってほしい
- ・ ゲームの中でどう動くかを考えてほしい

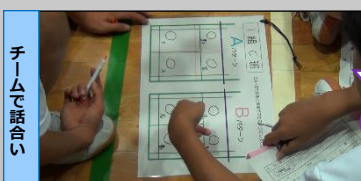
手立て1 一人一人の考えが「見える」ための工夫

- チーム全員で囲んで話し合える大きさの**作戦盤**の作成
- 線や矢印などの**記号**で伝え合える**作戦盤**と、話し合いの**ポイントの提示**



自分で考え

→

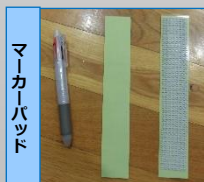


チームで話し合い

前の人の守備範囲を狭めて、後ろの人の守備範囲を広げよう

手立て2 コートでの動きが「見える」ための工夫

- 立体的に動くためのサポートとなる**教材やコート**の工夫
- 作戦盤で立てた内容を、実際のコートで**シミュレーション**を行う



マーカーパッド

→



コートに置く

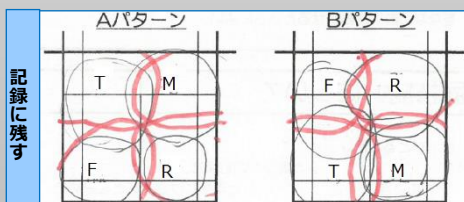
ここは僕の守備範囲だな



ミニゲーム

手立て3 今日の学習内容が「見える」ための工夫

- 作戦盤の内容が**記録として残る**ワークシートの工夫



記録に残す



自分の考えと違ったなあ

〇〇君の考えもよかったな

次回の守備範囲はどうしようかな

→ 次時のめあて

思考が「見える」活動

成果

- 話し合いの場面で、記号を使って伝え合えることで、話し合いに参加しやすくなり、自分の意見を発表する生徒が増えた。
- シミュレーションを行ったことで、ゲームの中での動き方が分かりやすくなり、自分の守備範囲に責任を持って動く生徒が増えた。
- 記録に残すことで、次時の守備範囲をどうするかを考え、具体的なめあてを持って取り組む生徒の姿が見られた。
- 「①自分の考えを持つ→②チームでの話し合い→③実際のコートでの確認→④自分へのフィードバック」という思考と活動の流れが明確になり、生徒が作戦についての思考を深めていく様子が見られた。

課題

- 技能習得の時間と思考力・判断力を高める活動時間のバランスが大切である。
- コートの大きさや、石灰、マーカーパッドの配色をより工夫する必要がある。